

鹿児島県議会議員(自由民主党)

西村 協きょう



県議会活動報告

Vol.3

ご挨拶

協調そして
協働へ！

日頃より皆様方のご支援、ご協力を賜りまして心から感謝申し上げます。

今年一月に誕生した新市長と共に協調と協働の精神で枕崎市民の皆様の負託に答えるべく県議会議員活動に取り組んでまいります。

平成二十九年第二回定例議会での一般質問やこの一年間の様々な活動と県政について、簡単ではありますが、ご報告させていただきます。

県議会定例会

第一回定例会	H 29・2・17 ～ H 29・3・24
第二回定例会	H 29・6・19 ～ H 29・7・7
第三回定例会	H 29・9・14 ～ H 29・10・6
第四回定例会	H 29・11・28 ～ H 29・12・18

活動報告：H29.4～H30.2に行った活動の一部を記載しております。

平成29年5月18日 川辺地区獣医師会総会出席
5月21日 枕崎市青果協同組合総会出席
5月22日 南薩地区総合開発期成会出席
5月25日 鹿屋農業高等学校視察
5月30日 南さつまリサイクル協同組合総会出席
6月 1日 県下一斉防災点検に同行し、危険地域の現地調査を行なった
7月 2日 東海枕崎会に参加
7月10日 J R九州・県知事・県土木部長・国道事務所に要望活動
7月19日 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所に要望活動
8月17日 鹿児島農業農村整備について、曾於地域における大規模畑地かんがい現地調査を行った。
8月25日 国道226号整備促進議員連盟で国道226号の整備状況及び要望箇所の視察

8月30日 茨木県警察本部・自動車安全センターの視察
10月 7日 鹿児島県私学振興大会に出席
10月11日 南薩地区におけるでん粉用かんしょ関係の視察
10月20日 南薩4市の建設組合員との意見交換会
10月24日 鹿児島県戦没者追悼式に参列
10月30日 鹿児島県立短大・西警察署視察
11月19日 MOA美術館作品展の表彰式に参加
11月23日 近畿枕崎会出席
11月25日 南薩地域植樹祭に参加
平成30年1月 7日 出初式に参加
2月15日 桜馬場地区農産物生産出荷協議会総会に出席
2月16日 県下一周駅伝激励会出席

他様々な活動と、意見交換会に参加させて頂きました。

文教警察委員会他活動レポート（現地調査・視察・要望）

（県立短期大学視察）



（鹿屋警察署視察）



（226号整備促進議員連盟視察）



（鹿児島西警察署視察）



（鹿屋農業高校視察）

（開催告知）以下の日程で県政報告会及び座談会を行います。
ぜひこの機会にお気軽に、皆様方のご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

3月12日（月） 午後7時30分～宇都公民館	3月17日（土） 午後7時30分～中原公民館
3月13日（火） 午後7時30分～塩屋公民館	3月18日（日） 午前10時～東本町公民館
3月14日（水） 午後7時30分～東白沢公民館	3月18日（日） 午後7時30分～木原公民館
3月15日（木） 午後7時30分～木場公民館	3月19日（月） 午後7時30分～俵積田公民館
3月16日（金） 午後7時30分～大塚公民館	3月20日（火） 午後7時30分～田布川公民館

＜お問い合わせ先＞ 県議会議員 **西村 協**

〒898-0014 鹿児島県枕崎市東本町77
TEL：0993-72-2888 FAX：0993-72-2890

平成二十九年 第二回定例会一般質問



消防・防災ヘリコプターの 運用状況等について

質問

本県の県防災航空センターは、枕崎ヘリポートを運航基地とし運用されていますが、現在の組織体制、

代で常時5名以上、365日救助や救急搬送等の緊急運航に備えています。常時勤務のパイロット1名、整備士2名、運行管理者1名は、県内の民間航空会社に委託しております。傷病者の救急搬送は気象

運航体制、ドクターヘリとの役割分担はどうなっているのか。また、災害時における活動実績と、消防・防災ヘリの安全運航の確保に向けた取り組みをお示し下さい。

答弁

平成10年6月の運航開始以来、所長、南薩地域の消防本部等からの隊員7名、補助員1名の計9名が交

条件等、ドクターヘリが対応困難な場合に、消防・防災ヘリ、自衛隊や海上保安庁で対応しています。



これまでの活動実績は、自然災害による被害状況調査が35件、火山活動状況調査が38件、豪雨災害の孤立者等の救助活動が3件、孤立集落への物資搬送が2件、また県外での緊急消防援助隊としての活動が19件になります。

安全運航についての取り組みは、各種装置の操作の再確認や救助作業中の機外監視の徹底と新たな安全機能を仕様書に盛り込み安全運航に万全を期していきたい。

鹿児島県地域防災計画における 災害時受援計画について

質問

県災害時受援計画の概要と県の物資拠点候補地選定、対象施設側との連携と市町村への周知と受援計画策定に向けた支援についてお示し下さい。

答弁

大規模災害発生時に本県が応援を受ける際の手順、応援の活動拠点等を整理して国や他の自治体等の応援を迅速かつ効率的に受け入れる事を目的としています。施設の規模や構造、交通アクセス等を勘案し、15カ所の物資拠点地を選定しました。

定期的に関係機関と協議・調整をし、緊密な連携体制を構築して相互に顔の見える関係を築いていきます。

市町村へは、県政説明会や市町村防災担当課長会議等、様々な機会を通じて周知を図り、情報提供や個別相談への対応等、積極的に

支援を行いたい。

災害時における 医療体制について

質問

県内14の災害拠点病院の機能を維持する為の取り組みと、ヘリコプターの発着場所のない災害拠点病院における災害時の対応、広域医療運搬訓練の実施状況と予定についてお示し下さい。

答弁

災害拠点病院の機能を維持する為の対策として、全病院が必要な建物の耐震化が行われていて、自家発動装置や燃料タンク、受水槽、衛星電話、備蓄品等を備えています。

病院防災マニュアルを整備し地域の関係機関と連携した大規模災害訓練を実施する等、即応体制の確保に努めています。

ヘリコプターの離着陸場がない8災害拠点病院は、近隣の離着陸場を利用して、地元の消防機関と緊密に連携し円滑な搬送に努めます。

広域医療搬送訓練について、九州各県持ち回りで毎年実施し、本県のDMATも実動訓練を実施しています。

災害時の医療支援について

質問

災害時に医療等の支援を行う災害派遣医療チーム(DMAT)等の本県における整備状況についてお示し下さい。

答弁

本県におけるDMATは、本年6月現在で15病院に28チーム整備しており、災害時に精神的な支援を行う災害派遣精神医療チーム(DPAT)は、今年度中に2チーム整備の予定です。

災害時においても県民の方々が必要な医療が受けられるよう医療提供体制の充実・強化に努めます。



鹿児島県女性活躍推進計画について

質問

本県で本年3月に鹿児島県女性活躍推進計画が策定されました。それに基づき今後、民間企業や女性に対する啓発等、どのように行っていくかと考えているのかお示し下さい。

答弁

鹿児島県女性活躍推進計画に基づく子育て支援として、保育士の確保により待機児童の解消を図るほか、保護者の多様な働き方にも対応できる保育サービスの充実等、仕事と子育ての両立のための環境の整備を進めています。

働く女性が希望を持って活躍出来る環境づくりを進めるために企業トップ等の意識改革と実践を図るセミナーや女性を対象にしたキャリア支援のセミナーを開催します。

全ての女性が個性と能力を十分に発揮して、男女が

ともに安心して生き生きと働くことができる鹿児島の実現を目指してまいります。

教職員の綱紀保持について

質問

教職員の不祥事根絶に係る取り組みと、教職員の綱紀粛正について現在の課題とお考えをお示し下さい。

答弁

教職員の不祥事根絶に向けて、外部有識者からなる不祥事根絶委員会の提言のもとに、教職員の意識向上に係る対策として、参加型・体験型研修の実施、強化月間の設定、すべての学校に信頼される学校づくりのための委員会の設置などを講じました。

不祥事根絶委員会委員による学校視察や校内研修への講師派遣を行い教職員の研修の充実に努めてきました。

依然として教職員の不祥事が発生している事は、職員一人の意識に至るまで十分

分に浸透していなかったと認識しています。

多くの教職員が懸命に日々教育活動に取り組んでいる中、一部の教職員の不祥事により県民、保護者、児童生徒の信頼を失うことは、極めて遺憾です。

今後、教職員の不祥事を二度と起こさないという強い認識のもと、不祥事根絶を真剣に取り組み、これまでに以上の緊張感と危機感を持ち、全県態勢で不祥事の根絶を目指す決意です。

サメ被害対策について

質問

サメによる被害が深刻で、特に枕崎沿岸、熊毛・奄美周辺、薩摩半島西部海域では、漁獲物への被害だけではなく漁具等が破壊される切実な状況です。漁業者の所得向上や後継者育成など、漁業振興を図るため、サメ被害の防止策やサメ資源の有効活用が重要課題です。サメ被害の対策についてお

示し下さい。

答弁

現在、熊毛や奄美地区の多くの漁業集落で離島漁業再生支援事業を活用してサメ駆除に取り組んでいます。

平成28年度、15の市町村で20の漁業集落がはえ縄等によりサメ駆除を実施しました。サメ類捕獲の効率的な漁具・漁法の開発は、県開発促進協議会を通じ、引き続き国に要望していきます。サメ資源の有効活用については、県水産技術開発センター等が技術的支援を行ってサメ肉の燻製等が商品化されるなどの成果も上がってきています。今後もサメを活用した商品開発を支援していきたいと考えています。

